



“Aichi Smart Sustainable City Co-Creation Challenge” への参加

黒崎 友仁*, 大谷 良行**, 渡邊 貴道***

Participation in “Aichi Smart Sustainable City Co-Creation Challenge”

Tomohito Kurosaki*, Yoshiyuki Oya** and Takamichi Watanabe***

1. はじめに

UACJグループが掲げる長期経営ビジョン「UACJ VISION 2030」¹⁾に示される貢献領域の一つに、新規領域の創出・拡大がある。アルミニウムや自社の強みを活かして、モビリティ/ライフスタイル・ヘルスケア/環境・エネルギーの3分野に事業展開を目指している。

新規領域での事業展開を推進するためには同じ課題に取り組むパートナーとの共創が不可欠である。なぜなら、適切なパートナーと共創することで自社だけでは解決できなかった課題を解決することや、実現スピードを各段に速くすることが可能だからである。

2. 参加に至った経緯

これまで培ってきた既存事業のステークホルダーとの強固な関係を活かした共創活動に加え、新規領域においては従来接点がなかったパートナーとの共創にも挑戦する必要がある。特に近年は社会の変化が急激であるため、新たな技術やサービスを生み出しているスタートアップ企業との連携が重要と考えられた。また、UACJは事業を展開する地域との共生を大切に考え、積極的な地域貢献を進めている。そのため、UACJの主要拠点の一つとして名古屋製造所およびR&Dセンターを有している愛知県の特色を活かした活動を検討した。

そこで、愛知県が実施するスタートアップ企業と地域の事業会社との共創をサポートするプログラムに注目した。愛知県は「Aichi-Startup戦略」²⁾を2018年に策定し、スタートアップ・エコシステムの形成に力を入

れており、毎年複数のプログラムを開催している。その中で、特に自社の状況に適していると考えられた2022年度の“Aichi Smart Sustainable City Co-Creation Challenge”³⁾(以下、共創プログラムとする)への参加を検討した。

3. プログラムの流れ

3.1 事前準備

共創プログラムへの参加に際し、事前に目的や活動内容を確認した。過去に2年開催されているプログラムであったため、過去の参加企業の知見を共有するイベントが開催され事前に実例を知ることができた。また、運営事務局との個別面談にて具体的な活動内容を相談した。

3.2 共創パートナー募集テーマ策定

プログラム参加後は、運営事務局の支援を受けながら募集テーマの具体化とパートナー向けの発信内容を吟味した。既に社内で推進している新規領域関連プロジェクト3件(Figs. 1~3)を題材に、自社に足りない要素を整理し、パートナー企業に期待する要件を特定した。

3.3 パートナー募集

パートナー募集は愛知県や運営会社が保有する種々のネットワークを活用して国内外のスタートアップ企業に対して発信された。約2ヵ月の募集期間を経て国内外のスタートアップ企業18社から応募をいただいた。

* (株)UACJ マーケティング・技術本部 R&Dセンター 研究企画部, 博士(工学)
Research Planning Department, Research & Development Center, Marketing & Technology Division, UACJ Corporation, Dr. Eng.

** (株)UACJ マーケティング・技術本部 R&Dセンター 研究企画部, 博士(工学)
Research Planning Department, Research & Development Center, Marketing & Technology Division, UACJ Corporation, Ph. D.

*** (株)UACJ 経営戦略本部 兼 マーケティング・技術本部 R&Dセンター 第三開発部
Corporate Strategy Division, Development Department III, Research & Development Center, Marketing & Technology Division, UACJ Corporation.



Fig. 1 The aluminum lightweight detachable flood barriers “MIZUYOJIN”



Fig. 2 Real-time opening detection

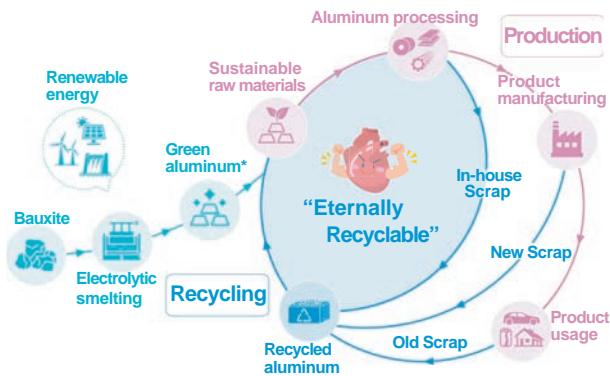


Fig. 3 Green technology⁴⁾

3.4 共創プラン策定

運営事務局と協議した結果、応募企業の中から共創プラン策定を進めるパートナー企業4社が決定された。年度末のプログラム成果発表に向けて約3か月間、各パートナー企業と共同で検証活動を進め、共創プランを具体化した。また、社内で前例がない取組みとなることが想定されたため、社内関係部門および意思決定者への進捗情報共有と合意形成にも取り組んだ。

4. 共創プラン

プログラム内で策定された共創プランのタイトルをTable 1に示す。これらの共創プランは2023年3月23日に開催されたAICHI INNOVATION DAY⁴⁾にて各パートナー企業から発表された。社内関係者にも当日参加の声掛けを行い、パートナー企業のプレゼンを直接届ける機会となった。

Table 1 Co-Creation plan⁵⁾

Theme	Start-up partner	Co-Creation plan
Flood barrier	RainTech	Providing a system that notifies when to install the flood barriers using a rainfall observation device that utilizes IoT technology.
Flood barrier	CaITa	Improved productivity of the flood barriers installation process through the use of digital twin technology.
Real-time opening detection	Godaam Technologies	Enhanced security measures for packages during logistics using opening detection aluminum foil.
Green technology	Enevo Japan	Promote accurate separation and sorting of aluminum waste.

5. 今後の展望

上述の4つの共創プランのうち、2件については2023年度に実証試験を開始している⁶⁾。共創パートナーとは、単なる受発注の関係や、完成された事業同士の連携関係ではなく、共通の課題解決に向けて両社が持つものを持ち寄って新たな事業を共に創る関係で取組みを進めている。この共創により、自社単独で取組むよりも速く、多くの価値を社会に提供できる実感を得ている。今後も新規領域のテーマを中心に様々なパートナーとの共創活動を推進していきたい。

参考文献

- 1) https://www.uacj.co.jp/ir/policy/long_term_vision.htm
- 2) <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/282849.pdf>
- 3) <https://aichissccc2022.com/>
- 4) <https://www.uacj.co.jp/english/ir/policy/feature12.htm>
- 5) <https://www.pref.aichi.jp/press-release/innovationday.html>
- 6) <https://www.uacj.co.jp/release/20230619.htm>



黒崎 友仁 (Tomohito Kurosaki)
 (株)UACJ マーケティング・技術本部
 R&Dセンター 研究企画部,
 博士 (工学)



大谷 良行 (Yoshiyuki Oya)
 (株)UACJ マーケティング・技術本部
 R&Dセンター 研究企画部,
 博士 (工学)



渡邊 貴道 (Takamichi Watanabe)
 (株)UACJ 経営戦略本部
 兼 マーケティング・技術本部
 R&Dセンター 第三開発部